

**製品名: ITA6 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM85909**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC 1:20-1:50,FC 1:20-1:50
分子量	126.6kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ITA6
別名	Integrin alpha-6, CD49 antigen-like family member F, VLA-6, CD49f, Integrin alpha-6 heavy chain, Integrin alpha-6 light chain, Processed integrin alpha-6, Alpha6p, ITGA6
遺伝子 ID	3655.0
SwissProt ID	P23229
免疫原	このモノクローナル抗体を生成するために、ITA6 組み換えタンパク質が使用されます。

**背景**

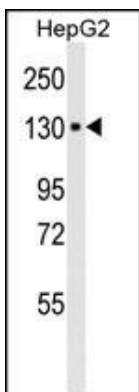
ITGA6 タンパク質産物は、インテグリン  $\alpha$  鎖  $\alpha$ 6 です。インテグリンは、 $\alpha$  鎖と  $\beta$  鎖からなる細胞表面の必須タンパク質です。特定の

鎖は複数のパートナーと結合し、異なるインテグリンを形成します。例えば、 $\alpha 6$  は TSP180 と呼ばれるインテグリンでは  $\beta 4$  と結合し、VLA-6 と呼ばれるインテグリンでは  $\beta 1$  と結合します。インテグリンは、細胞接着だけでなく、細胞表面を介したシグナル伝達にも関与することが知られています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっています。

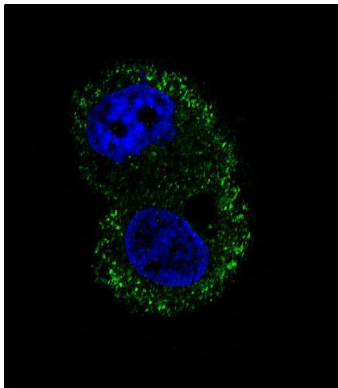
## 研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路

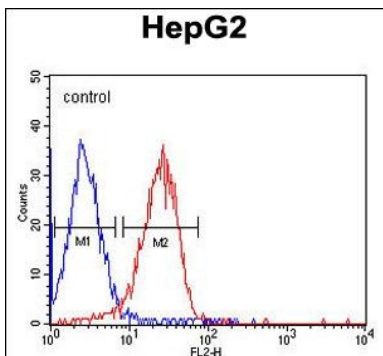
## 画像データ



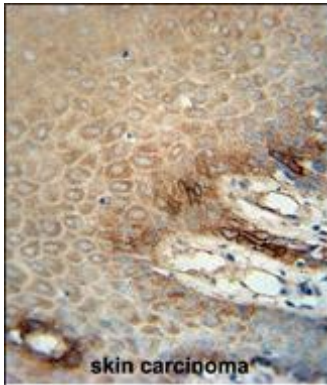
HepG2 細胞株ライセート (35 $\mu$ g/レーン) 中の ITA6 マウスモノクローナル抗体のウェスタンブロット解析。精製 Mab (8 $\mu$ g/ml) を用いて ITA6 (矢印) を検出した。



ITA6 抗体 (カタログ番号 AMM85909) と HepG2 細胞を共焦点免疫蛍光染色し、Alexa Fluor® 488 標識ヤギ抗マウス IgG (緑) で染色した。DAPI を用いて細胞核を染色した (青)。



ITA6 モノクローナル抗体 (カタログ番号 AMM85909) のフローサイトメトリー解析による HepG2 細胞 (右のヒストグラム) とネガティブコントロール細胞 (左のヒストグラム) の比較。解析には PE 結合ヤギ抗マウス二次抗体を使用しました。



ITA6 モノクローナル抗体（カタログ番号 AMM85909）を用いたホルマリン固定およびパラフィン包埋ヒト皮膚癌の免疫組織化学染色。続いて、二次抗体をペルオキシダーゼ標識し、DAB 染色を行った。本データは、免疫組織化学における ITA6 モノクローナル抗体の使用を示すものである。臨床的意義は評価されていない。